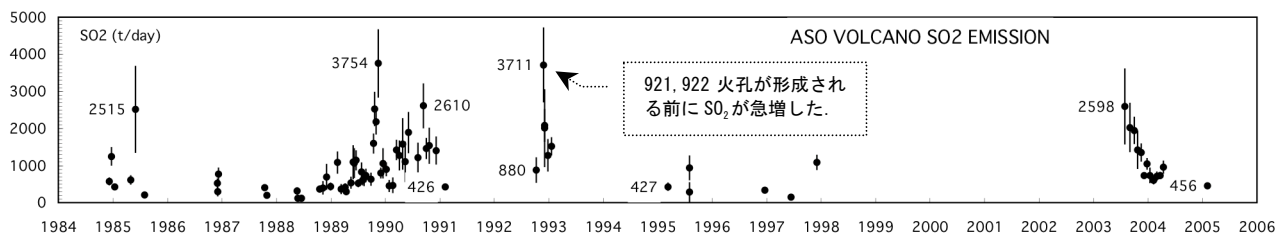
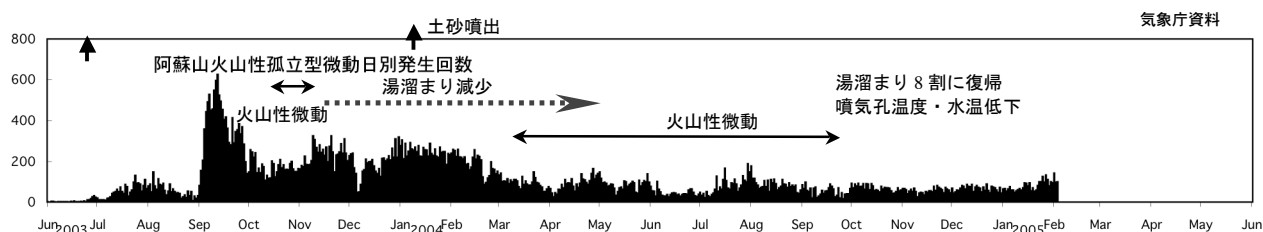
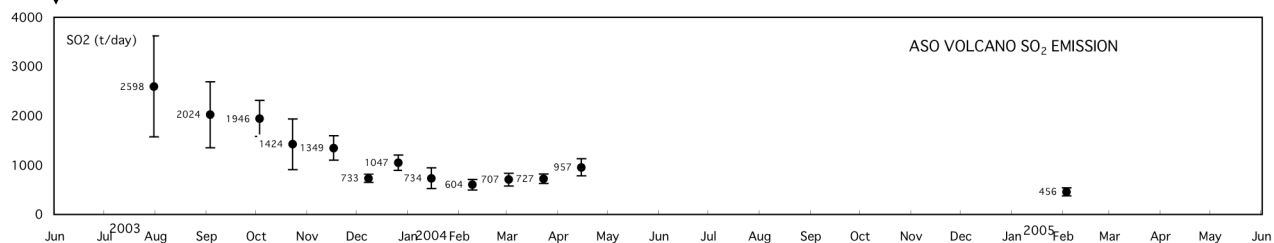
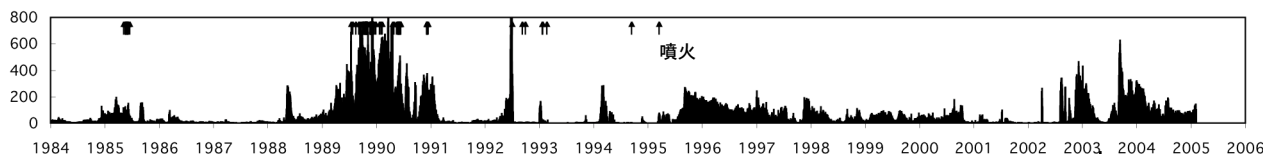


阿蘇火山の二酸化硫黄放出量

九州大学地震火山観測研究センター*



火山性孤立型微動発生回数 (気象庁)



阿蘇火山の二酸化硫黄放出量は、火山活動と密接に関連して変化している。噴火期間中は 2000 ton/day を超えるが、静穏期には 500 ton/day 以下である。また二酸化硫黄放出量の変化は、火山の表面活動に先行して現れることが多い。

2003 年 7 月 10 日に大規模な土砂噴出があり、8 月中旬には火山性微動も観測された。それに対応して 7 月 31 日には 2598±1026 ton/day の高放出量が記録され、これは 1989 年の活動期や 1992 年 11 月の火孔の開孔前と同等レベルである。放出量のピークは 2003 年 7 月 31 日以前にあった可能性が高い。

COSPEC の修理に時間がかかったため、2004 年 4 月から 10 ヶ月ほど観測できなかったが、2005 年 2 月 4 日に測定した二酸化硫黄放出量は 456±82 ton/day であった。この値は阿蘇山の静穏時の二酸化硫黄放出量に近く、阿蘇山の活動度は徐々に低下しているものと考えられる。

*松尾綱道・松島 健・清水 洋・齊藤政城・福井理作・太田一也